

わったー しまぬ はーりーや みぐとうな むん。  
私たちの故郷のはーりーは、見事なものだ。♪



はーりーは、豊漁や海の安全を願って行う祭りです。

沖縄で行われるはーりー行事の中でも「那覇はーりー」は最大規模で、およそ600年の歴史があるといわれています。

ちゅーや はーりー、  
まじゅーん んーじが  
いかな。

今日ははーりーの日。  
いつしょ一緒に見に行こう。

いー。  
まじゅん いか。  
いいですよ。  
一緒に行こう。



んかしぇー、はーりーぬ ひーや  
ゆっかぬひーに うくなとーたん。  
昔は、はーりーの日は、  
(旧暦の)5月4日に行っていたんだよ。



メ  
モ

## 中南部各地の行事

中南部の各地域にはいろいろな行事があり、その地域に住む人々が大切に守り続けてきました。あなたの地域には、どのような行事がありますか。

しまくとぅば ちかてい、しまぬ しちびんかい んーな まじゅーん  
いかな。

しまくとぅばを使って、故郷のお祭り（行事）に、みんなと一緒にあって参加しよう。



↑ 那覇大綱曳き



↑ 獅子舞フェスティバル



↑ 全島えいさー祭り



↑ 与那原大綱曳き



↑ 海神祭（座間味村）



↑ 糸満はーれー（※糸満では、はーれーと言います。）

わね しまぬ むらううどういや、でいきとん。  
私たちの島の村踊りは、見事なものだ。♪



むらうどい（村踊り）は、豊作や村の人々の安全を願って行う祭りです。



メ

モ

## 北部の行事



↑ 塩屋のうんがみ



↑ 安田のしぬぐ



↑ 久志の若狭司（久志区）



↑ 安和のうしてーく



↑ 屋部の八月踊り

ぱーんとうーや みゃーくんうていや なーだか  
まちゅりどーや。



ぱーんとうーは、宮古では有名な祭りなんだよ。



ばんたが しうまぬ ぱーんとうーや、みゃーくぬ しうまじゅーんどう あいう。  
わたしたちの島のぱーんとうーは、宮古の島中にあります。

きゅーや ぱーんとうー やーば  
まーちゅき みーが いか。  
今日はぱーんとうーだから、  
一緒に見に行こう。

ばぬー さーり いき  
ふいーさーち。  
私を連れて行って下さい。



どうろー どうが んーなんかい  
たっかーし、ぴうとうー  
ういきしゅまーいう。  
どろを自分のからだにねりたくって、  
人を追いかける。



×

モ

## 宮古の行事



↑城辺上区の獅子舞



↑川満棒踊り



↑うるかくいちゃー



↑松原の獅子舞



↑やーます御願



↑池間のくいちゃー



↑ともりのくいちゃー



↑友利獅子舞

ばがー しゅまぬ ぱーりうや みぐうとう。  
わたしたちの島の豊年祭は、見事なものだ。♪



ぱーりう（豊年祭）は、豊漁や海の安全を願って行う祭りです。集落ごとに行われる祭りで、**八重山**で行われる行事の中でも規模が大きく、人々が楽しみにしている行事です。

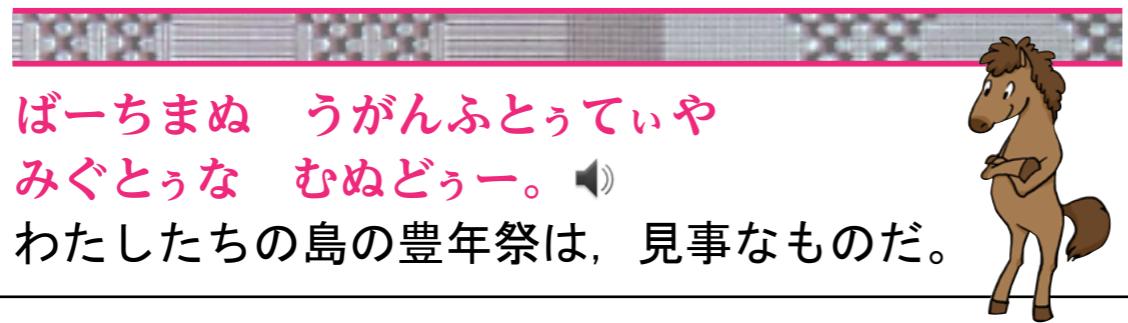


メ

モ

## 八重山の行事





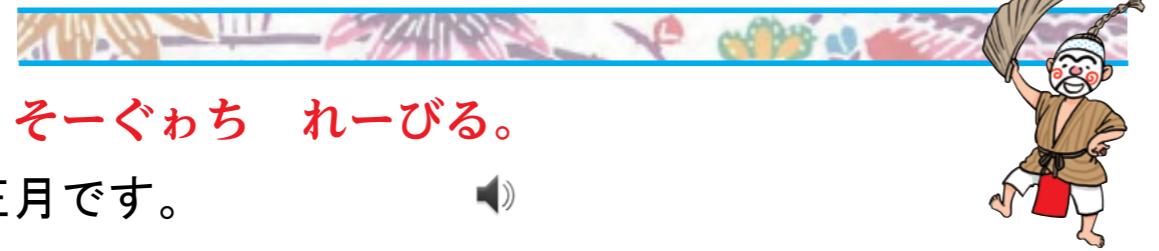
うがんふとうてい（豊年祭）は、豊漁や海の安全を願って行う祭りです。

与那国で行われる行事の中でも、「どうんた」や「棒踊り」はみんなが楽しみにしています。



## 与那国の行事





いいー そーぐわち れーびる。  
良いお正月です。



一年の計は元旦にありといわれます。元日には、家族が集まつてきちんとあいさつを行い、一年の抱負などを述べ合うのも良いかもしれませんね。

あなたの今年の正月はいかがでしたか？

いいー そーぐわち  
なとーんやー。

良いお正月になりましたね。

にんとうぬ えーさち  
うんぬき やびら。  
年頭のあいさつをします。



くとうしん ゆたさるぐとう うにげー さびら。  
今年もよろしくお願ひします。

## 北部 いいー そーぐわち やー。

にんとうぬ えーすとぅ しーが  
っちゃん。  
年頭のあいさつに来ました。

いいー そーぐわち やー。  
良い正月です。

くたいん ゆたはるぐとうやー。  
今年もよろしくね。

## 宮古 かぎ しょーがちゅんどう なり ういう。

しょーがちゅぬ あいさつちゅ  
すーでい。  
年頭のあいさつをします。  
かぎ しょーがちゅやー。  
良い正月です。

くとうしゅまい たかさーしー  
ふいーさーち。  
今年もよろしくお願ひします。

## 八重山 いー しょんぐわじゅらー。



にんとうぬ あいさちゅ つさりんゆー。  
年頭のあいさつをします。

いー しょんぐわじゅらー。  
良い正月です。

にんとうぬ あいさちゅ つさりんゆー。  
今年もよろしくお願ひします。

## 与那国 いー すんがていどう ないぶるゆ。



にんとうぬ あいさてい つあります。  
年頭のあいさつをします。

いー すんがてい。  
良い正月です。

くとうちん いーくとうゆ  
あらみとうらしわり。  
今年もよろしくお願ひします。



正月にうたわれるうたを調べてみましょう。

## 中南部／北部 「かじゃでいふう」(かぎやで風)

あらたまぬ とうしに たんとう くぶ かじゃてい  
くくるから しがた わかく なゆさ。

新年に炭とこんぶをかざって、心から若くなったような心持ちがする。

きゆうぬ ふくらしゃや なをうにじやなたている  
ちぶでいうる はなぬ ちゅぢや たぐうとう。

今日のうれしさは何に例えよう。つぼんでいる花がつゆに会って花が開いたようだ。

## 宮古 「とーがにあやぐ」

うぶゆ ていらしゅる までいだき 国ぬ 国々  
島ぬ 島々 ていりやーがり うすいよ~。

大世を照らしている真太陽(ティダ)のように 国の国々、島の島々を照りかがやき統治する~。

## 八重山 「ばしうぬ とうりうぶし」(わしの鳥節)

~ しょんぐわじゅぬ しゅうとうむでい ぐわんにちゅぬ 朝ばな あがるかい  
飛びちゅけ ていだば かめ まいちゅけ。

(7・8番の歌詞) 正月の早朝に 元日の朝まだきに

(若わしは) 東の方に飛んでいった太陽をいただいてまつて行った。

※与那国では、正月には中南部と同じように「かぎやで風」がうたわれるのが一般的です。

むーちー ちゅくてい, とうしぬ

かじぬ むーちー さぎらな。♪

むーちーを作つて, 年の数のむーちーを下げるよ。!



きゆうれき 旧暦の12月8日は「むーちー」を食べる日です。「さんいん(月桃)」の葉に包まれた「むーちー」は、よい香りがする、おいしい食べ物ですね。また、みんなの年の数だけヒモで結んで天井からつるす風習もあります。またこの時期は、「むーちーびーさ」といって、一年でも寒くなる季節もあります。おいしい「むーちー」をたくさん食べて、身も心も暖かくなりましょう。

むーちー うふおーく ちゅくてーぐとぅ ちゅふあーら かみよー。  
むーちーをたくさん作つてあるから、お腹いっぱい食べてね。

うりむちー とうくてい,  
とうしぬ かじ うりむちー さぎらー。

うりむちー ふおーく とうくていとぅ,  
わたみちゅか くえーよー。  
むーちーをたくさん作つてあるから、お腹いっぱい食べてね。  
まーはぶぢやげらはぬ。  
だー, ていーち くわーてい んだー。  
おいしそうだね。それでは、ひとつ食べてみよう。

むっちゅう ちゅつふい, とうしぬ  
かずだき むっちゅう さぎやー。

むっちゅう うぱーた つつふい  
うきば ばたーんちゅきや ふあいよー。  
むーちーをたくさん作つてあるから、お腹いっぱい食べてね。  
あがんにや (あば), んまぎやー。  
あら, ぴうていーちう ふあいみー。  
ああ, おいしそうだね。それでは、ひとつ食べてみよう。

(※最近では宮古の家庭でもムーチーを作つたりしますが、  
本来、宮古にはムーチー行事は行われていませんでした。)

むつば つくり  
とうすぬ かず さげー みやーむー。

むつ たかーに ちうくれーりきー  
ばだぬ んちうんけん ほいよー。  
むーちーをたくさん作つてあるから、お腹いっぱい食べてね。  
いびー, んまさんがしゃーそー あんずかー  
ぴていーず ほい みやーむー。  
ああ, おいしそうだね。それでは、ひとつ食べてみよう。

むてい つくいてい,  
とうちぬ かでい さんぎるん。

むてい まーしく つくいあんがら, ばた んくた はいばえー。  
むーちーをたくさん作つてあるから、お腹いっぱい食べてね。  
あー, まーさんぎさんがえー。いた つとうち はいんぬー。  
ああ, おいしそうだね。それでは、ひとつ食べてみよう。



ちゅーや しーみー。するてい はかめーが いか。  
今日は清明祭。<sup>せいめいさい</sup>みんなで墓参りに行こう。

沖縄島では、4月のはじめに「しーみー（清明祭）」を行います。そのときは、家族や一族が集まって墓参りをして、ごちそうをお供えして、ご先祖さまを供養します。

うやふあーふじんかい うーとーとうしぇーやー。  
ご先祖さまに、うーとーとーしなさいね。

うーとーとう。  
うーとーとー。

うーとーとうしから、うさんれー さやー。  
うーとーとーしてから、ごちそうをいただこうね。



ちゅーや しーみー。  
むんどうり すりてい ふあかけ いかー。



うやふあーふじけ とーとう しぇー。  
ご先祖にうーとーとーしなさいね。

とーとう しちから、さんでー さーやー。  
うーとーとーしてから、ごちそうをいただこう。

うーとーとう。  
うーとーとー。



## 宮古・八重山・与那国

きょうは十六日祭。みんなで墓参りに行こう。

宮古や八重山、与那国では、「十六日祭(じゅーるくにちー)」が盛んです。「じゅーるくにちー」は、旧暦の1月16日に行う墓参りです。あの世うつせ(後生)の正月といわれています。

### 宮古

きゅーや じゅうるくにちう。  
んーなし ぱかんかい いか。



きゅーや じゅうるくにちう やーば んまむぬー くーっうーい きうしうたいう。  
んーなしー んきぎさーち。

今日は十六日祭だから、ごちそうを準備してきました。みんなでお召し上がりください。  
ずー、んーなしー ていー や かみついてから、んまむぬー ふあー。  
さあ、みんなで手を合わせて、ごちそうをいただこう。

### 八重山

きゅーや じゅーるくにちう  
むーるさーり はかかい はららー。



きゅーや じゅーろくにちう やりきー こっきー しこーりきーだ けーらし  
おいしとーんなーらー。(んこーりよー。んきゃーとーりよー。)

今日は十六日祭です。ごちそうを準備してきました。みんなでお召し上がりください。  
でーい、けーらし ていー うさーし こっきー とーらりら。  
さあ、みんなで手を合わせて、ごちそうをいただこう。

### 与那国

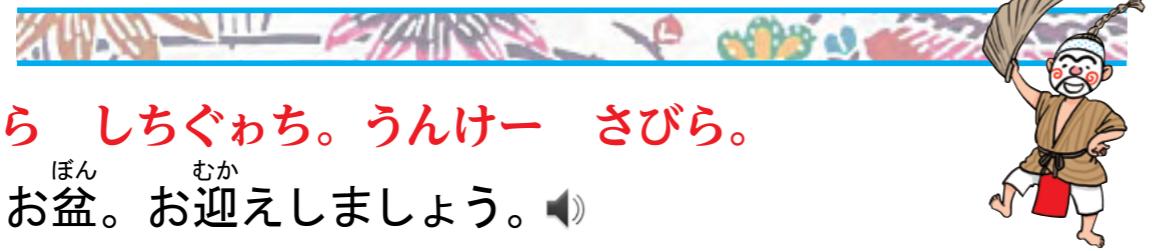
すーや どうぬくにてい。  
ぶーる まどうん はがんき でーい。



すーや どうぬくにてい どう。うさい しくんき すんどう。  
ぶーるし うやしわれ。

今日は十六日祭です。ごちそうを準備してきました。みんなでお召し上がりください。  
でーい、ぶーるし ていー うさしてい、うさい たばらりるー。  
さあ、みんなで手を合わせて、ごちそうをいただこう。

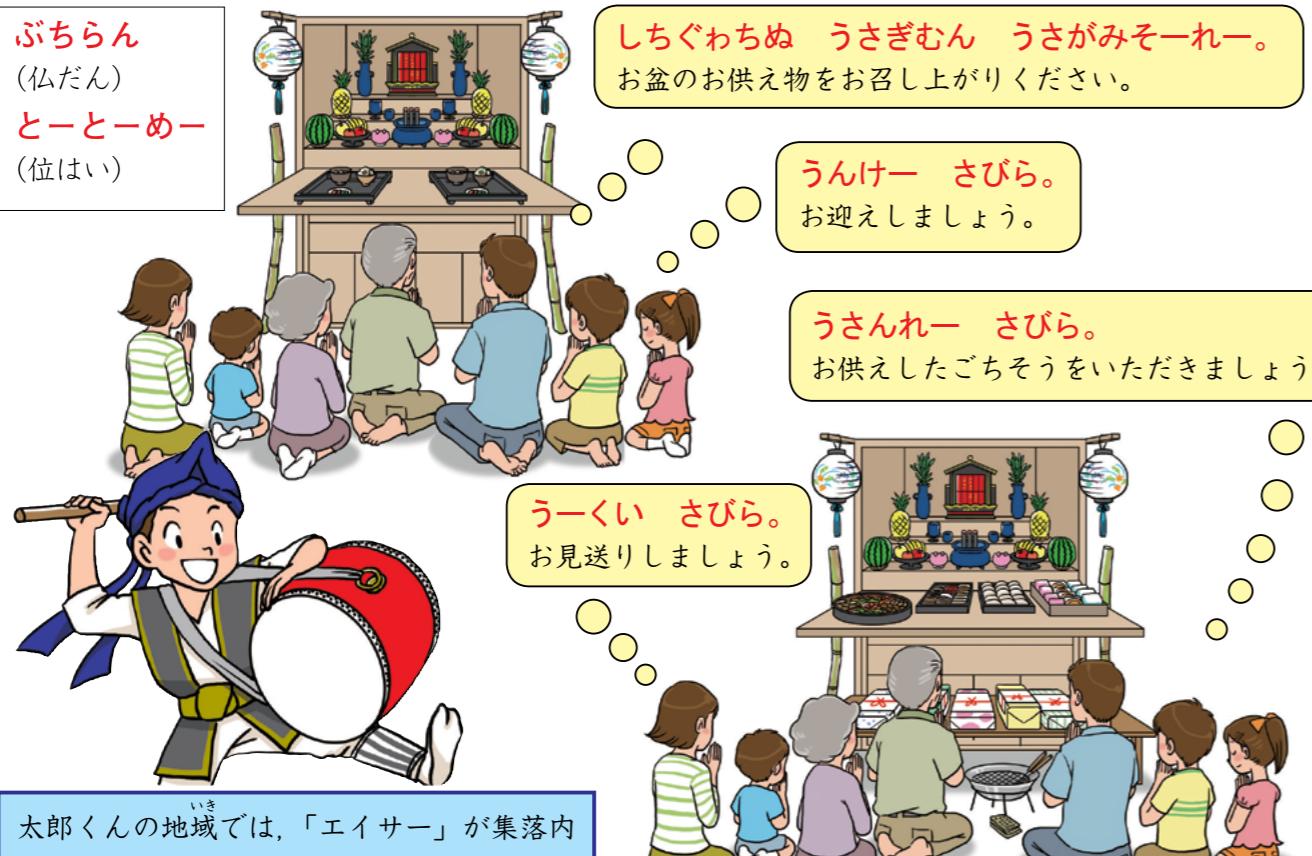




ちゅーから しちぐわち。うんけー さびら。  
今日からお盆。お迎えしましょう。♪

きゅうれき  
旧暦の7月13日から15日までの三日間は、お盆が行われます。ごちそうをお供えして、ご先祖さまを供養する行事です。13日の初日は「うんけー（お迎え）」、14日は「なかび（中日）」、15日は「うーくい（お送り）」の日で、うちかび（あの世で使うお金）を燃やして、ご先祖さまをお見送ります。各地では、「エイサー」や「アンガマ」など、お盆ならではの催しも行われます。

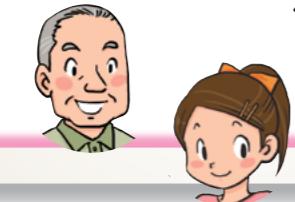
ぶちらん  
(仏だん)  
とーとーめー  
(位はい)



太郎くんの地域では、「エイサー」が集落内を回っています。あなたの地域では、どんなお盆行事が行われているかな。

ちゅーから しちぐわち。むけーらやー。

しちぐわちぬ うさぎむぬ  
いいぢやぎそーれー。  
お盆のお供え物をお召し上がりください。  
うんけー さーやー。  
お迎えしましょう。



さんでー さーやー。  
お供えしたごちそうをいただきましょう。  
うーくい さーやー。  
お見送りしましょう。

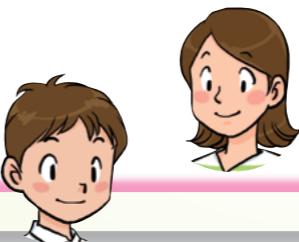


きゅーから しうとうがちう。んかいやー。



しうとうがちうぬ うさぎむぬー  
んきぎさまち。  
お盆のお供え物をお召し上がりください。  
ずー、んかい。  
お迎えしましょう。

うさぎむぬー ふあー。  
お供えしたごちそうをいただきましょう。  
うとうもー すー。  
お供えしましょう（お見送りしましょう）。

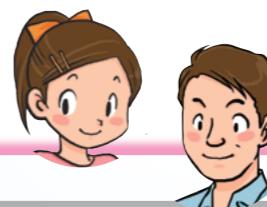


きゅーから そーろん んかよーら。



そーろんぬ しうこーりむぬ  
おいしょーり。  
お盆のお供え物をお召し上がりください。  
んかよーらー。  
お迎えしましょう。

すないだ むぬ（こつきー）  
とーらりんどー。  
お供えしたごちそうをいただきましょう。  
うくる さーなーら。  
お見送りしましょう。



すーがら する。んかるんどう。



するぬ まっちゃん うさい  
うやしわれ。  
お盆のお供え物をお召し上がりください。  
する んかいうやい。  
お迎えしましょう。

まっちゃん うさい たばらりる。  
お供えしたごちそうをいただきましょう。  
する うぐいうやい。  
お見送りしましょう。



ちゅーや、ゐなぐちょーれーが

じゅーさんゆーえー。 ( )

ちゅらじん ゆー うちゃーとーんやー。

今日は、妹の十三祝い。きれいな着物が似合っているね。

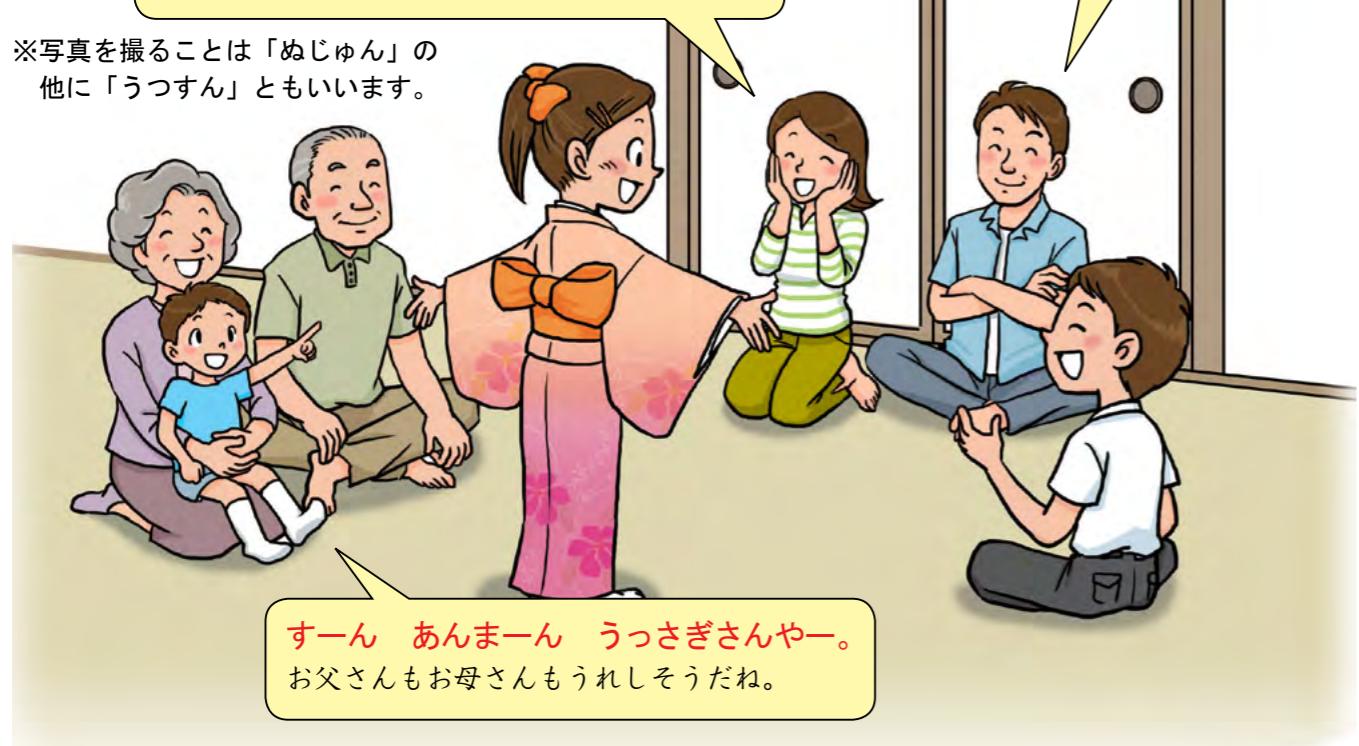


数えの十三歳を迎えると、十三祝いの行事を行います。あなたの家や学校でも、十三祝いをしたことでしょう。比嘉家では、太郎くんの妹の夕希さんが、十三祝いを迎えています。おしゃれをした妹はかわいいですね。みんなも自分の十三祝いを思い出したのではないか。

ちゅらじん うちやーとーくとう  
さしんやーかい さしん ぬじーが いか。  
きれいな着物が似合っているから,  
写真館へ写真を撮りに行こう。

ちゅーぬ ゆーきーや,  
いっぺー ちゅらさんやー。  
今日の夕希は、とてもきれいだね。

※写真を撮ることは「ぬじゅん」の  
他に「うつすん」ともいいます。



すーん あんまーん うっさぎさんやー。  
お父さんもお母さんもうれしそうだね。

ちゅーや ゐなぐちょーでーぬ じゅーさんゆーいえー。  
ちゅらぎぬ ゆー うちゃとん。



ちゅーぬ ゆーきーや, でーじな ちゅらはんやー。  
今日の夕希は、とてもきれいだね。

ちゅらぎぬぬ うちやとくとう, 写真やーけ いじ 写真 とういが いかやー。

きれいな着物が似合っているから、写真館へ写真を撮りに行こう。

ちゃーちゃーん あんまーん うっさぎさんやー。

お父さんもお母さんもうれしそうだね。

きゅーや うとうとうぬ じゅーさんよーいいう。  
かぎぎうんな ゆーどう ぱいぱい ういいうじゃー。



きゅーぬ ゆーきーや ありやみーん あぱらぎやー。

今日の夕希は、とてもきれいだね。

かぎぎうぬ ぱいーぱい ういば しゃしんやーんかい しゃしんぬ  
とういうが いか。

きれいな着物が似合っているから、写真館へ写真を撮りに行こう。

あんなまい、うやまい ふからしうきやー。

お母さんもお父さんもうれしそうだね。

きゅーや うとうどうぶなるぬ じゅーさんぬよい。  
かいしゃーる きん にあいそー。



きゅーぬ ゆーきーや あっぱりしゃー そーらー。

今日の夕希は、とてもきれいだね。

きんぬ かいしゃーり にやーりきー しゃしん とうんな はら。

きれいな着物が似合っているから、写真館へ写真を撮りに行こう。

びげーん(あっちゃん) ぶねーん(あっぱん) さにんしゃんがさー そーらー。

お父さんもお母さんもうれしそうだね。

すーや うとうとうぶないぬ どうーさんぬだい。  
あびやる んなにんがどう まーてい んしゃる。



すーぬ ゆーきや, あらぐー あびやんがえー。

今日の夕希は、とてもきれいだね。

あびやる んなにんが まーてい んしゃるんがら,

写真やんき 写真 とうんでい でい。

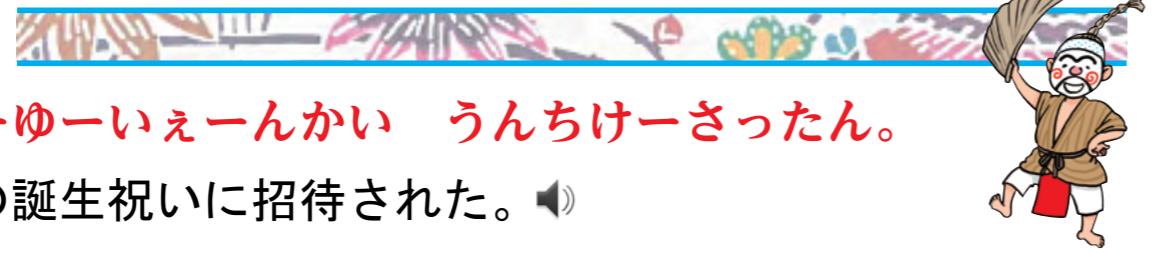
きれいな着物が似合っているから、写真館へ写真を撮りに行こう。

いやん あぶたん あらーぐ しゃなぎどう わるんがえー。

お父さんもお母さんもうれしそうだね。

### <一口メモ>

沖縄では、自分の生まれた年と同じ干支を生まれ年といいます。丑年に生まれたら、その年が自分の生まれ年になるわけです。また、生まれ年にはお祝いをしますが、そのことを「とうしづー」といいます。ですから、十三祝いも「とうしづー」のお祝いになるのですね。十三祝いの次は、25歳で、そのあとは37歳、49歳、61歳、75歳、97歳になります。



たんかーゆーいえーんかい うんちけーさったん。

満一歳の誕生日祝いに招待された。♪

赤ちゃんが、満一歳の誕生日を迎えると、「たんかーゆーいえー」といって、誕生日祝いを行います。「たんかーゆーいえー」では、赤ちゃんの前にご飯やそろばん、ノートや筆などを置いて自由に手に取らせます。何を選ぶかによって将来の職業をうらうなながら、家族や親せきなどで祝います。あなたは何を選んだかな。家の人に聞いてみましょう。



あきらーや ぬー いらぶがやー。  
明は何を選ぶかな。

勝の弟（明）  
まさるー  
ふきがちょーれー

まさるーや ちゃー やたが。  
勝はどうだった。



わんねー、じん とうつとーたんり。  
私は、お金を取ったんだって。

## 北部 たつかゆーいえーけ ゆわっとん。

あきらや ぬーが とういるやー。  
明は何を取るかな。  
まさるや、ちゃつち げーたる。  
勝は、どうだった。

ちょーめん（帳面）、ふでい（筆）、じーにー（お金）、するばん（そろばん）、ぬー（ご飯）



たんかーよーいいうんどぅ あびらいたいう。



あきらー、のーゆが いらびうがら。  
明は、何を選ぶかな。  
まさるー、のーしーが やたいう。  
勝は、どうだった。

ばがどぅ じんぬ  
とういゅうたいうていーぬ。  
私はお金を取ったんだって。  
あしうが、あきらー いんがなしうきやー。  
しかし、明はかわいいね。



たんかーよいかい ちうかさりだー。



あきらーや のーどぅ いらぶかやー。  
明は何を選ぶかな。  
まさるーや のーしどぅ うだかやー。  
勝はどうだった。

ばなー じん とうつたかやー。  
私はお金を取ったんだって。  
やすんが、あきらー あつたらさーん。  
しかし、明はかわいいね。



ちょーみん（帳面）、ふでい（筆）、じん（お金），  
するばん（そろばん）、つんぽん（ご飯）

たんかぬ だいんき つかいらりたん。



あきらや、ぬーば いらぶかやー。  
明は、何を選ぶかな。  
まさるや、ぬんに ぶたんが。  
勝は、どうだった。

あぬや でいんどぅ とうたるんでい。  
私はお金を取ったんだって。  
いるんが、あきらや んだらんえー。  
しかし、明はかわいいね。



ちょーみん（帳面）、ふでい（筆）、でいん（お金），  
するばん（そろばん）、い（ご飯）

んかしんちゅぬ いくとうば てーしちに しょー。  
昔の人たちのことわざを大切にしなさい。♪



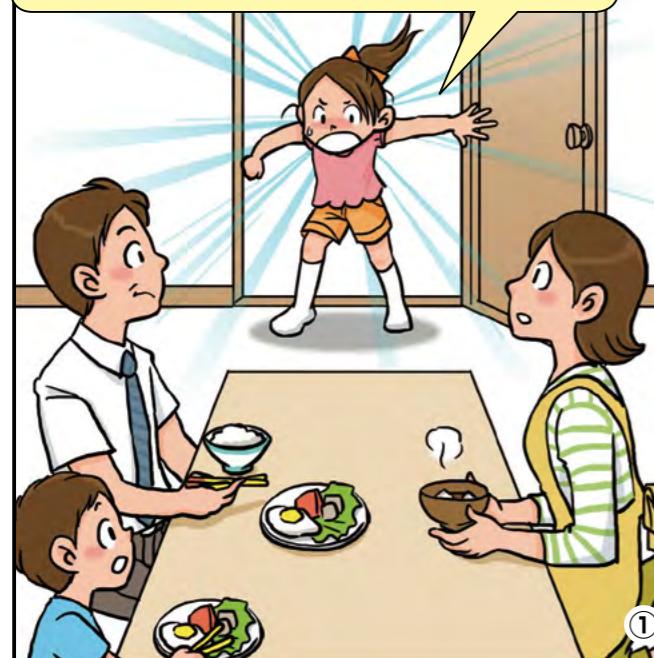
あわていーる なーかー よーんなー (うていちき)。

「急いでいる時こそ、ゆっくり（落ち着いて）。急いでいるときこそ、冷静に落ち着いて行動しなさい。」

・急がば回れ ・せいては事を仕損じる

れーじなたん。がっこー うくりーん。

大変だ。学校に遅れてしまう。



ふえーく うくちくいれーしむるむんぬ。  
早く起こしてくれたらいいのに！



いすじ いちゅさ。  
急いで行ってきます。



れーじなとーさ。かばん わしたん。  
大変だよ。かばんを忘れてしました。



ちー ちきてい いきよー。  
気をつけて行きなさいよ。

うんなとぅちえー あわていーる  
なーかー よーんなーのやんろー。  
こんなときは、落ち着いて行動するんだよ。

くぬ ふかぬ いくとうば。(この他のことわざ)

いくとうばや、てーしちな むん やんろー。 (ことわざは、大切なものです。)

たんめー、はんしーから ならてい んーりよー。 (おじいさんや、おばあさんから習ってみようね。)

● いちやりば ちょーれー。 (行きあえば兄弟)

「見ず知らずの人でも縁あって親しくなれば兄弟のようなもの。」

・そですりあうも他生の縁

● きらまー みーしが、まちげー みーらん。 (慶良間は見えるが、まつ毛は見えない)

「慶良間列島は見えるが、目に最も近いまつ毛は見えない。」

・灯台もと暗し

● ぬちる たから。 (命こそ宝)

「命はかけがえのない大事なものである。」

・命あっての物种

● やーなれーが ふかなれー。 (家での習いが、外でもそのままの習い)

「家のしつけの悪いのは、よそでもその通り。家のしつけは外でも自然に現れるもの。」

・氏より育ち

● いいーつちょー しんぐわんしん こーてい るし し。 (良い人は、千貫で買っても友とせよ。)  
※ (お金のこと)

・持つべきものは友



むかしんちゅーぬ いちえぬ くとうや わっしていや ならんどー。

(昔のことわざは、忘れてはならないよ。)

● いっくわいなーる うすみじや ぬみる。 (一回こそ、塩水も飲む。)

「失敗は一回で十分である。繰り返してはいけない。(潮も水も同格で、苦くて欲しくないもののたとえ)」

・前車の轍は踏まず

● むぬ すそーに しーねー, うやふあーふじん すそーに すーすとぅ いいぬむぬ。

(物を粗末にしたら、親祖父母を粗末に扱うのと同じ。)

「物を粗末に扱うことは、祖先を粗末にするのと同じ。」

● かーみぬ くーよか とうしぬ くー。 (亀の甲より年の功)

「年長者の豊富な経験は、貴重で尊敬すべきものだ。」

・老いている馬は道を忘れず

● みみだいづまーぬ ちゅーくーやー。 (耳が垂れた馬(おとなしそうな馬)こそ、人を噛む。)

「温和しそうに耳を垂れている馬が、人を噛むものだ。(人は外見で判断してはいけない。)」

● あがいていだる うがみる。さがいていだや うがまん。

(上がる太陽を挙るもので、下がる太陽は挙まない。)

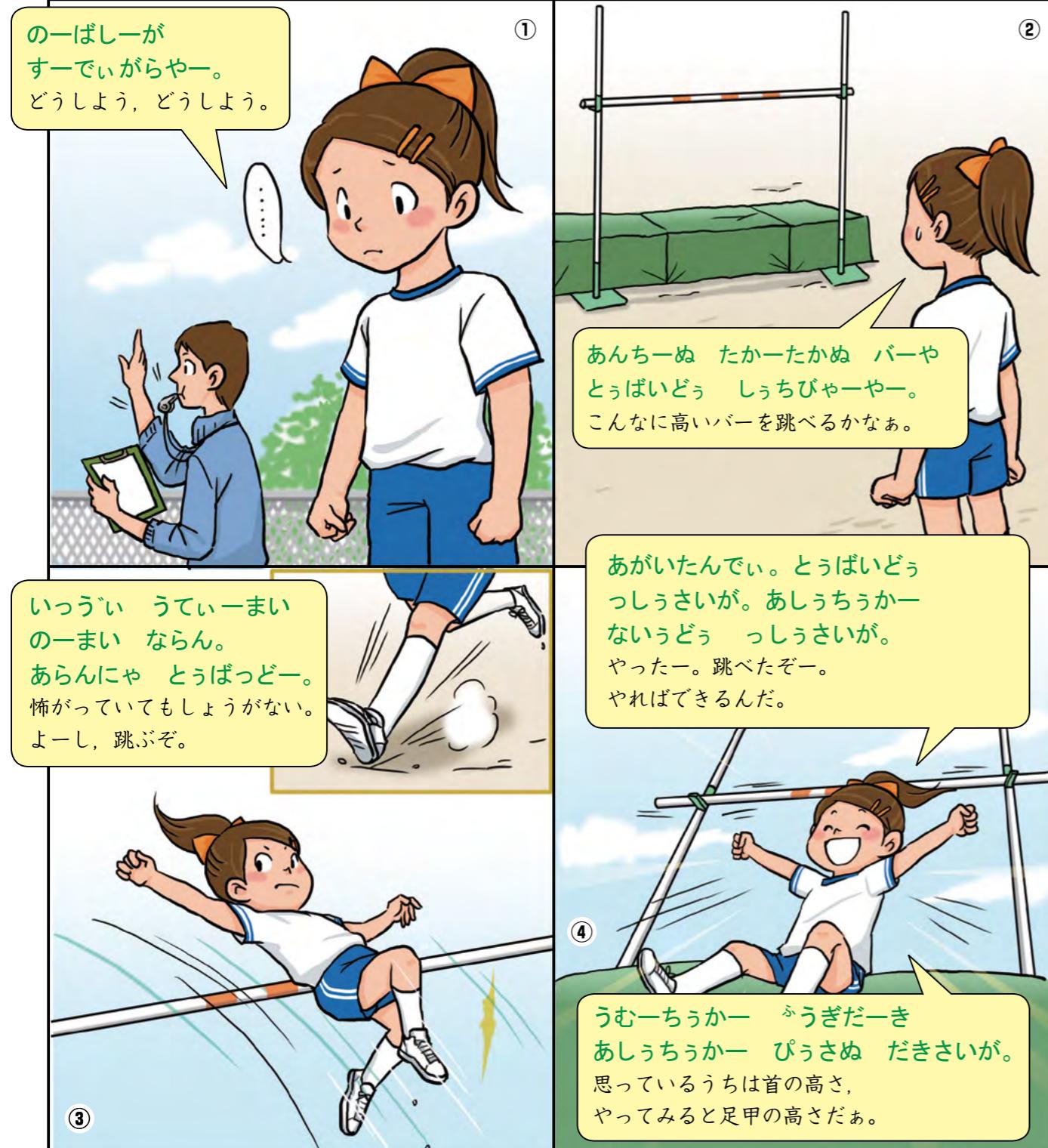
「明るいことにこそ、心を向けなさい。細かいことでくよくよしてはいけない。」



んきゃーん ぴうとうぬきゃーぬ  
んきゃーんじゅくー だいじゅんすー。  
昔の人たちのことわざを大切にしよう。



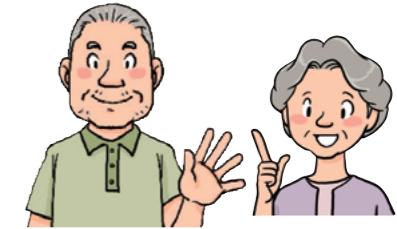
うむーちゅかー ふうぎうだき あしうちゅかー ひさだき。  
思っているうちは首の高さ、やってみると足甲の高さ  
※手をつける前は難しそうに見えても、実際にやってみると、案外たやすくできるものだ。



うぬ ぶかぬ んきゃーんじゅく。(この他のことわざ)

んきゃーんじゅくや、だいじゅなむぬ。  
(ことわざは、大切なものです。)

しゅーたー、んまたーから ならい みーる。  
(おじいさんや、おばあさんから習ってみましょう。)



● ういびやー うちうんかいどぅ ぶりいう。

(指は内側に折れる)

「五本の指が内側に折れるように、兄弟や親戚は、いざというとき協力して、事にあたるものである。」  
・血は水よりも濃し

● ぴとうだすきやー どーーだしうき。

(人助けは 自らを助く)

「他人に対する援助は、結果として自分への援助として帰ってくる。」  
・情けは人のためならず

● かなっさどぅ あばらぎさ。

(愛故に美しい)

「いとおしい心で見れば、可愛く美しく見える。」  
・あばたも笑くぼ

● たかぎーんどぅ かじゃー かかいう。

(高木に風はかかる)

「高い木には風が強く当たるように、優れた者は世間からとやかく言われる。」  
・高木は風に折られる  
・高木は風にねたまれる

● ぴうとうかたん かなう むぬぬどぅ, むむかたん かのー。

(一芸にかなう者が、百芸にかなう)

「一つの芸や技に秀でるものは、他の分野でも能力を発揮するものである。」

● やまばとー どーーぬ ふうちうんかいどぅ ふあーいいう。

(山鳩は自分の口に食われてる)

「余計なことを言わなければ、災いを招くことはない。」  
・キジも鳴かずば撃たれまい  
・口は災いの元



むかす ぴうとうだーぬ ゆんぐとうや  
あたらさ しょーよ。   
昔の人たちのことわざを大切にしよう。



いー どうしう むちう たたみぬ ぴーりう ふむん, やな どうしう  
むちうかー ちうななー ぱくん。

「善い友だちと仲良くすると畠の縁を踏む、悪い友だちと結ぶと縄目をかけられる（捕まること）」

たろー まーずん としょかんかい  
はらぬ。きゅーぬ しゅくだい  
まーずん さーでーー。  
太郎。一緒に図書館行かんか。今日の宿題、  
一緒にやろうぜ。



あんじー。かんじー かんがいかー  
みしゃーるすず。ならーしひやーり  
にふあいどー。

そうか。こんな風に考えればいいのか。  
教えてくれてありがとう。

たろーとう げーむせんたーかい  
はる かたみ しぇーすんが。  
しゅくだいや あつたらむぬ やりき,  
くとうぱり くいー。

太郎たちとゲームセンターへ行く約束してるん  
だけど。宿題が大事だから、断ってくるね。

いー どうしう むちうかー たたみぬ  
ぴーりう ふむん, やな どうしう  
むちうかー ちうななー ぱくん。  
本当に、「善い友と親しく交わると畠の縁を踏むことができ、悪い友と交わると縄目をかけられる。」だね。



×

モ

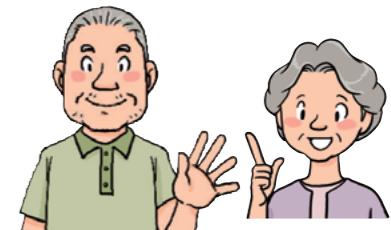
## うぬふかぬ むかしゅむに。(この他のことわざ)

むかしゅむに あたらさーる むぬ。

(ことわざは、大切なものです。) 注), むかしゅむに(ことわざ)

うしゅまい んみーから ならい みーら。

(おじいさんや、おばあさんから習ってみましょう。)



## 八重山

● うやぬくいやー かんぬくいで うむやー ゆー しゅきよー。

(親の声は神の声と思ってよく聞きなさいよ。)

● ゆくしむねー すーかー ぬすとうるぬ はじまるんどー。

うそ どろぼう  
(嘘をつくと泥棒が始まるぞ。)

「うそをつくことが、やがては盗みにつながっていく。うそをつくことは、泥棒と同じように悪いことである。」

● かたちえー にばん きうむぬどう だいいちゅ。

(形は二番, 肝きも〈心〉が第一。)

● いじぇーる むねーや ぬまるぬ。

(言った言葉はのまれぬ)

「口から出した言葉は、再び口の中へののみ込むことはできない。」

・ 口は災いのもと

・ 後悔先に立たず



● ふちゅや やふぬ むとう。

わざわ  
(口は災いのもと。)

● ぱりや ぬまるぬ。

(針はのまれぬ)

「小さいからといって、などってはいけない。」

さんよう つぶ  
・ 山椒さんようは粒つぶでもピリリと辛い

● ふしえー ぴとうぬ まりじょー。

しゅうへき  
(習癖は、人の生まれ性分)

「人のくせというものは生まれつきのもので、年を取っても変わらない。」

・ 三つ子の魂百まで

● もーぎぬ たちゅかー あーみぬ きんどー。

(虹の立っているところでは、雨が降っている)

「何か物事が発生するときには、必ず物事が起きる理由がある。」

んかち つとうんたぬ むぬぬたていや  
あたらきりよー。 

昔の人たちのことわざを大切にしよう。



どうとまいる うゆびぬ なーまら あるんに、つとうにや なーなたが あいどう ぶる。

「一晩に生まれた指に長い短いがあるように、人には、人それぞれの性格がある。」

・十人十色



## うぬふがぬ むぬぬたてい。(この他のことわざ)

むぬぬたていや、あたらる むぬどー。 (ことわざは、大切なものです。)

あさ、あぶんたがら ならいんにゅー。 (おじいさんや、おばあさんから習ってみましょう。)

### ●あとうなる むぬんがどう、うぶいゆ ふ。

(後になる者が、大きな魚を食べる)

「人に先をゆずって最後に残った人が、大きな魚を食べることがあるように、人に先をゆずれば、自分に福がやってくる。」

・残り物には福がある。

### ●いーむぬとー ちりたや いーならいき、だなむぬとー ちりがらや、だないどう きる。

(良い人と付き合ったら良い習慣が身に付き、悪い人と付き合えば、悪い習慣が身に付く)

「交際する相手によって、人は感化されてしまう。」

・朱に交われば赤くなる。

### ●うやんが うむんに あがみんが うまぬん。

(親が思っているように、子どもは思っていない)

「親がどれだけの愛情を注いでも、子どもには伝わりにくいものである。」

・親の心、子知らず。

### ●ていん あがみがらや、かでい くんでいどう ある。

(空が赤くなってくると、台風がやってくる)

「天気のことわざ」

### ●みーみぬ まいぬどう、んたく。

(実らない稲の穂が頭を立てる)

「礼儀を知らないはいけない。」

・実るほど頭を垂れる稻穂かな。

### ●きーぬ まんがいや つかりるが つとうぬ まんがいや つかにぬん。

(木の曲がりは使えるが、人の性格の曲がった奴はどこにも使えない)

「もって生まれた性格や性質は、年を取っても変わることはない。」

・三つ子の魂百まで

### ●だーならいどう ふがならい。

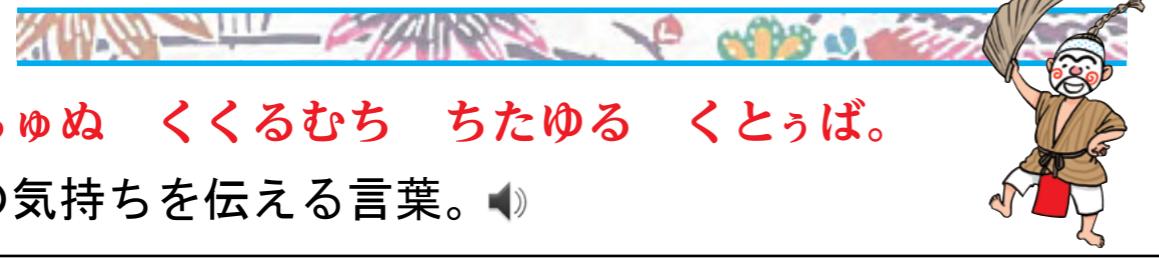
(家の習いが、外での習い)

### ●はいない にちない、どうつたい かつたい。

(南か北か、どちらかわからない)

「決断力がなく、いい加減な人を言い表すことば。」





うまんちゅぬ くくるむち ちたゆる くとうば。  
みんなの気持ちを伝える言葉。♪

しまくとうばには、私たちの気持ちを表す言葉が数多くあります。中でも「ちむ」は、心の意味で多く使われており、沖縄の人々の優しさを表しています。「ちむ」のつく言葉には、どのようなものがあるか調べてみましょう。

ちむぢゅらさん。

心が清らか。



ちむふじゅん。

心が満ち足りる。



※他にも「ちむしからーさん（心さびしい）」「ちむやむん（心が痛む）」「ちむわさわさーすん（胸さわぎがする、心が浮き立つ）」「ちむの一いん（機嫌が直る）」など、たくさんあります。

わね むんどりぬ くくるむち  
ちてーる くとうわ。



きむぢゅらはん。  
心が清らか。

きむがなはん。  
心からかわいく思う。

きむ ふいじゅん。  
心が満ち足りる。

きむ やみん。  
心が痛む、かわいそう。

きむしからはん。  
心さびしい。

きむ さーすん。  
胸騒ぎがする。

きむ のーいん。  
機嫌が直る。

ばんたがー んーなが  
きうむ あらーしゅ くとうば。



きうむ やぱ。 心やさしい。

きうむぬ すぐから

かなしうっさいどう うむいう。

心からかわいく思う。

きうむ んていーんてい。

心が満ち足りる。

きうむぬどう やむ。ちうんだらーしゅ。

心が痛む。かわいそう。

きうむさがい。

(きうむ さびうしうむぬ)

心さびしい。

きうむ やむ。 心が痛む。

んみ とうとうみきう。

胸騒ぎがする。

きうむ のーいう。

機嫌が直る。

ばがだー けーらぬ  
うむいゆ つたいる くとうば。



きうむぬ やふあさーん。

心やさしい。

きうむから かなさーん。

心からかわいく思う。

きうむ ふぎるん。 心が満ち足りる。

きうむんぐりしゃーん。

かわいそうである。

きうむしかさーん。

心さびしい。

きうむぬ やむん。 心が痛む。

きうむあーりう、きうむさわぎう。

胸騒ぎがする。

きうむ のーすん。

機嫌を直す。

ばんた ぶーるぬ くぐるむてい  
とうんきる くとうば。



くぐる なだやしく。 心やさしい。

くぐるがら あたらき うむい。

心からかわいく思う。

ちむ んてい たらし。

心が満ち足りる。

ちむ だーみ, ちむりさ。

心が痛む、かわいそう。

ちむ さびつつあー。

心さびしい。

ちむ だーみ。 心が痛む。

ちむ ささらんてい。

胸さわぎがする。

きんがい ぬい。

機嫌が直る。

うた ちゅくてい んーら。♪  
歌（琉歌）を作つてみよう。

ここで、うたとは琉歌のことをいいます。琉歌とは8・8・8・6音のリズムを持った歌のことです、古くから沖縄の人々に親しまれ、歌い継がれてきました。

わったー しまんかい ちたーとーる うた しらびてい んーら。  
私たちの故郷に伝わっている歌（琉歌）を調べてみよう。

例えば、小さいころによく歌っていた「ていんさぐの花」の歌詞も琉歌で、8・8・8・6音の形式になっています。  
ていんさぐぬはなや（8音）ちみさちにすみてい（8音）  
うやのゆしぐとうや（8音）ちむにすみり（6音）  
みなさんも、自分の地域のことを歌っている琉歌を調べて、自分でも作つてみませんか。



まじえー うたぬ 碑 とうめーてい  
んーら。  
まずは琉歌碑を探してみよう。



## 北部（久志） うた とうくてい んだー。



いが しまけ ぬくとぬ うた しらびてい んだー。  
私たちの故郷に伝わる歌（琉歌）を調べてみましょう。



まじや、うたぬ ふいー とうめーてい んだー。  
まずは、歌の碑文を探してみましょう。



メ

モ

## <一口メモ>



琉歌とは、ヤマトで作られる5・7・5・7・7音のリズムで作られる和歌（短歌）に対して呼ばれる、沖縄独特の歌の形です。基本的には8・8・8・6音の

リズムで歌われており、サンパチロクと呼ばれます。8音というのは、なじみがないうように思われますが、しまくとうばだと、しっくりくるリズムなのです。また、琉歌は単に歌をよむだけではなく、三線などに合わせたメロディーに乗せて歌われるのが大きな特徴です。

古典音楽や民謡なども、この琉歌のリズムで歌われることが多いので、身近な歌を調べて琉歌のリズムを楽しんでみてはいかがでしょうか。りっか うた ちゅくてい んーら。（さあ、琉歌を作つてみよう。）

## 北部

いじゅぬ きぬ はなや あん ちゅらさ さちゅい  
(伊集の木の花や あんきょらさ 咲きゆり)

わぬん いじゅ やとうてい ましら さかな  
(わぬも伊集のやとて 真白咲かな)

～読み人知らず～



## 中部

ふばな さち でいりば ちり ふいじん ついかぬ  
(穂花咲き出れば ちりひじもつかぬ)

しらちゃにや なびち あぶしまくら  
(白ちゃんねやなびき あぶしまくら)

～赤犬子～

意) 稲の穂花が咲き出すと、ちりや泥一つつかずによく育ち、豊かに実った稲穂は、大粒の実を支えきれずにあぜを枕にしている。赤犬子は約400年前の人で、三線で歌を始めた人だといわれている。彼は三線もうまく美声の持ち主でもあり、予祝（願い）の歌得意とし、各地を渡り歩いてうたつたといわれている。この琉歌も稻の豊作を願った予祝の歌なのである。



## 南部

あしみじゅ ながち はたらちゅる ひとうぬ  
(汗水流ち 働ちゅる人ぬ)

くくる うりしさや ゆすぬ しゆみ  
(心 うれしさや 他所ぬ 知ゆみ)

～中本稔～

意) 汗水流しながら、一生けんめい働く人の、その心に感じる喜びは、働く喜びを詞を募集したところ、具志頭郵便局長であった中本稔の歌詞が当選したものである。





## 宮古

ばんたが しゅまぬ あーぐう

まーちうき つづふあ。

私たちの故郷の歌を、一緒に作りましょう。



ばんたが しゅまん んきやーんから あいう あーぐう しらびみー。  
私たちの故郷に伝わる歌を調べてみよう。



まっざー あーぐぬ ひぶんぬ とうみみー。  
まずは、歌の碑文を探してみよう。

<なりやまあやぐ>

サー なりやまや なりていぬ なりやま  
すうみやまや すうみていぬ すうみやま  
イラユマーン サーヤース すみていぬ すみやま

宮古を代表する民謡のひとつ「なりやまあやぐ」の一番の歌詞です。  
その意は、「慣れているヤマへ行っても染まって（油断）してはいけませんよ」と教訓的な歌詞となっています。



## 八重山

ばがーしゅま うた まーぞん ちゅくらー。  
私たちの故郷の歌を、一緒に作りましょう。



ばがーしゅま うた  
しらびらー。  
私たちの故郷に伝わる歌を  
調べてみましょう。



まじゅ うた ぴむん  
とうめーむら。  
まずは、歌の碑文を探して  
みましょう。



<赤馬節>

赤馬ぬ いらすざ (赤馬の、ああ うらやましいことよ)

足四ちゃぬ どうきにやく (足四ちゃ (赤馬) の冥加なことよ)

生りるかい 赤馬 (生まれる甲斐ある 赤馬よ)

産でいるかい 足四ちゃ (育てる甲斐のある 赤馬よ)

沖縄主に 望まれ (琉球国王に望まれ)

主ぬ前に 見のうされ (琉球国主のお召馬になった)

いらさにしや 今日ぬ日 (ああ よろこばしい 今日の日よ)

(ヒールガヒ)

どきさにしゃくかに日 (とてもうれしい 黄金の日よ)

(ヒールガヒ)

羽生いるだきだら (羽が生えて飛び立つくらい うれしいよ)

×

モ



## 与那国

ばんた ちまぬ うた, まどぅん つくいんだぎ。

私たちの故郷の歌を、一緒に作りましょう。



ばんた ちまに ちたわる うた ちらびんぬー。

私たちの故郷に伝わる歌を調べてみましょう。



までいや, うたぬ ひむん みきんぬやー。

まずは、歌の碑文を探してみましょう。



<どなんスンカニ>

一. ゆなぐにぬ なさぎ いくとうばどう なさぎ  
ぬていぬ ある あいや とうやい しゃびら  
(与那国的情 言う言葉が情  
命のある間はおつきあいしましょう)

三. なんたはま うりてい むちやる さかじきや  
みなだ あわ むらし ぬみぬ ならぬ  
(波多浜下りて 持った盃は  
涙泡盛らし 吞むことが出来ない)

二. ゆなぐにぬ とうけや いきぬ みじぐくる  
くくうる やしやしどう わたてい いもり  
(与那国渡海は池の水心  
心安々と渡っていらっしゃい)



<一口メモ>



宮古や八重山・与那国三つの地域には、多くの優れた歌が歌い継がれて  
います。しかし、どちらも同じ分野の歌が伝わっているのではなく、それぞれ  
に特徴があります。

宮古は「歴史の島・伝説の島」と呼ばれていることからわかるように、歴

史的な事実や事件を、ありのままに壮大に歌い上げた歌謡が特徴です。

八重山・与那国は、「詩の國・

歌の國」と呼ばれているように、たくさんの歌がよまれ、  
歌い継がれてきました。その中には、自然を大らかに歌  
い上げているものや、恋心など自分の感情を素直に歌い  
表したもの、歴史的なことを歌ったものなどがあります。

自分たちのしまくとうばで、自分たちのシマの歌を味  
わってみることもいいでしょう。



↑とうがにあやぐ歌碑 (宮古)

琉歌とは、琉球の歌または、琉球歌謡の略語で、うたわれる形式によって長歌、短歌、仲風、つらねなどに分けることができます。その中で、もっとも好まれた形式が短歌で、普通に琉歌という場合は、この短歌を指していると考えてよいでしょう。

短歌は、8・8・8・6音の30音形式になっています。例えば、小さいころによく歌っていた「ていんさぐの花」の歌詞も琉歌で、8・8・8・6音の形式になっています。

ていんさぐぬ はなや（8音）ちみさちに すみてい（8音）  
うやの ゆしぐとうや（8音）ちむに すみり（6音）  
琉歌は、昔の人々から今の人々に受け継がれ、現在でもさかんにうたわれています。  
ここでは、歌碑に刻まれるなど、人々に親しまれてきた琉歌をいくつか紹介します。



↑恩納ナベの琉歌が刻まれた歌碑

うんなだき あがた さとうが つんまりじま

（恩納岳あがた 里が生まれ島）

むいん うしぬきてい くがた なさな  
（もりもおしのけて こがたなさな）

～恩納ナベ～

**意)** 恩納岳の向こう側は、いとしいあなたの生まれた村である。山をおしのけてその村をこちら側に引き寄せたい。恋をする女性の恋人を想う激しい心が、恩納岳という不動の自然をも動かしそうな力で迫ってくる様が感じとれる。



↑恩納ナベの琉歌が刻まれた万座毛の歌碑（裏に歌詞が刻まれている）

なみぬ くいん とうまり かじぬ くいん とまり

（波の声も止まれ 風の声も止まれ）

しゆゆい ていんじやなし みうんち をうがま

（首里天がなし みおんき拝ま）

～恩納ナベ～

**意)** 波の声も止まれ、風の声も止まれ、すべてのものよ静まれ。さあ、みんなして国王をお迎えし、拝もうではないか。万座毛に立ち寄った琉球国王をたたえた歌である。岸壁に碎ける波の音に止まれと命じ、松にさわぐ風に止まれと命じる。作者の気迫が感じられる。

うんな まついしたに ちじぬ

ふえぬ たちゆし

（恩納松下に 禁止の碑の立ちゆす）

くい しぬぶまでいぬ ちじや ねさみ

（恋忍ぶまでの 禁止やないさめ）

～恩納ナベ～

**意)** 恩納番所前に松の木があり、その下に禁止令を書いた高札が立っていることよ。まさか、恋をするなという禁止はないだろう。

農村の希少な娯楽であった伝統的な遊び（シヌグ）が、首里王府によって禁止された事に対して、自由ほんぽうなナベが人間の自然のあらわれとしての恋愛を禁止するものではないと嘆いた歌である。

## ＜一口メモ＞ -女流歌人「恩納ナベ」と「よしや」-

数多い歌人の中でも、たくさんの人々に親しまれている「恩納ナベ」と「よしや」は、琉歌の二大女流歌人といわれています。

恩納ナベは、18世紀の前半、尚敬王時代（1713～51年）の人だといわれている伝説の歌人で、今の恩納村の恩納岳のふもとに生まれたといわれています。

よしやは、1650年、今の読谷村に生まれ1668年に没したといわれている伝説の歌人で、短い18年の生涯であったと伝わっています。幼くして遊郭に身売りされますが、その境遇の中で和歌の影響を受けたすぐれた恋の歌を多く残しました。

恩納ナベの歌には対象に強く働きかけるほんぽうさが感じられ、よしやの歌には恋の歌に限らず、悲しく切ない気持ちをこめた歌が多く見られます。



うらむ ひじやばしや なさき ねんふいとうぬ

（うらむ比謝橋や 情けない人ぬ）

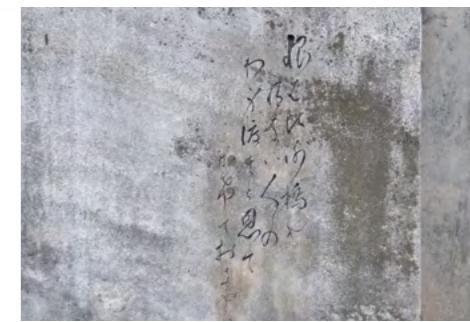
わん わたさ とうむてい かきてい うちやら

（わぬ渡さともて かけておきやら）

～よしや～

**意)** うらめしい比謝橋は、私を渡そうと思って、情けを知らない人がかけておいたのだろうか。

「うらむひじやばしや わんわたさとうむてい なさけねんふいとうぬ かきていうちやら」とも歌われています。



うゆばらぬ とうみば うむいます かがみ

（及ばらぬとめば 思ひ増す鏡）

かじやちよん うちゆち をうがみ ぶしゃぬ

（影やちやうもうつち 拝みぼしやの）

～よしや～



**意)** とうてい及ばない身の恋と思うと、かえって思いがつのてくる。せめて、あの人の面影だけでも鏡に映して、お姿を見たい。伝説では、よしやの恋の相手は士族で正妻がいる人で、遊女であるよしやとは自分が違すぎるために、及ばぬ恋のはかなさとつの想いをあらわした歌となっている。

うどうるくな あささ

くわゆんでいや あらん

（おどろくなあささ 食はゆんでやあられ）

ちむがなしや あていどう

だちや んぢやる

（肝かなしやあてど 抱きや見ぢやる）

～よしや～

**意)** 蟬よ鳴いてくれるな、お前を取って食おうというのではない、心底かわいいと想うから手に取って抱いてみただけだよ。

人間によってどうにでもされる弱い存在の蝉に、悲しい境遇の自分を見てしまう作者の気持ちが読み取れる歌である。よしやが蝉に呼びかける声には切ないものが感じられる。

琉歌は、国王や政治家、文学者、遊女、農民にいたるまで、いろいろな階層の人々がよみ、うたい親しんでいます。うたわれている内容も様々で、政治家としての信念をよみ込んだ歌。恋の歌もあれば、自分ではどうにもならない身上を嘆いた歌もあります。

他にも、豊作を祈ったり、人々の願いを歌にこめるなど、人々の心の中からじみ出てきた心情が、そのまま琉歌の中にうたいこめられています。



ふみらりん しかん すしらりん しかん

(ほめられも好かぬ そしられも好かぬ)

うちゆ なだやしく わたいぶしやぬ

(浮世なだやすく 渡りぼしやの)

～名護親方龍文～



意) ほめられることも好まない。悪く言われることも避けたい。

人生はただ平穀無事に過ごしたいものだ。

名護親方(1663～1734年)は、唐名を程順則といつた。  
儒教を通して教育の普及に力を尽くし、品位と徳が高かったので、名護聖人と呼ばれた。すぐれた人物の人生上の一つの態度として、次の蔡温の歌とよく比較され論じられる。

蔡温が描かれた切手→



ふまり すしらりや ゆぬなかぬ ならい

(ほまれそしられや 世の中の習ひ)

さたん ねん むぬぬ ぬ やく たちゆが

(沙汰もないぬ者の 何役立ちゆが)

～具志頭親方文若～

意) ほめられることや悪口を言わることは、世間ではよくあることで気にすることはない。世に取りざたされることもない人が、どうして世の中の役に立つことが出来ようか。

具志頭親方(1682～1761年)は、唐名を蔡温といい、尚敬王の時代の三司官として政治や経済・産業に大きな力を發揮した。蔡温と程順則は同じ時代に活躍した人物だが、その時代の琉球は薩摩の支配下にあり、財政的に苦しい時代であった。同時代に生きた二人の性格が対照的であるのがおもしろい歌である。

なぐぬ うふがにく

(名護の大兼久)

うま はらち いしょしや  
(馬走らち いしょしや)

ふに はらち いしょしや  
(舟はうち いしょしや)

わ うらどまい

(わ浦泊)

意) 名護の大兼久にある馬場で、馬を走らせるうれしさよ。

名護の海で、舟を浮かべることのうれしさよ。

※名護の人々が、馬を走らせたり、舟で遊んだりすることの喜びをあらわしている歌である。



メ  
モ

きゆぬ ふくらしやや なううにじやな たている

(今日のほこらしやや なをにぎやなたてる)

ちぶでい をる はなぬ ちゆ ちゃたぐとう

(つぼでをる花の 露きやたごと)

～読み人知らず～

意) 今日のうれしさを何にたとえようか。まるでつばんでいる花が露に出会い、開花する時のよろこびそのものだ。

この歌では、花が露と出会いうことによって、開花することを最上のよろこびとして、たとえに用いている。露が花にかかる清らかな姿への感動も素朴なよろこびに満ちている。「かぎやで風」の音曲にのせて、祝い事一般においてうたわれる。



じやじち いたびしに うちやい ふいく なみぬ

(謝敷板干瀬に うちやり引く波の)

じやじち みやらびぬ みわれ はぐち

(謝敷めやらべの 目笑ひ歯茎)

～読み人知らず～



意) 謝敷の海岸の板干瀬に寄せたり引いたりしている波は、謝敷の娘たちが笑いざわめいているときの口元の、あの白い歯ならびを想わせる。

謝敷(国頭村)の景観の美しさをいうと同時に、村の娘たちの美しさもたたえた、いわば土地ばめの歌である。そこには自然と一体となった精神を見ることが出来る。



からや ちじ ぬぶてい まふえ んかてい みりば

(瓦屋つぢのぼて 真南向かて見れば)

しまぬらどう みゆる さとうや みらん

(島の浦ど見ゆる 里や見らぬ)

～読み人知らず～

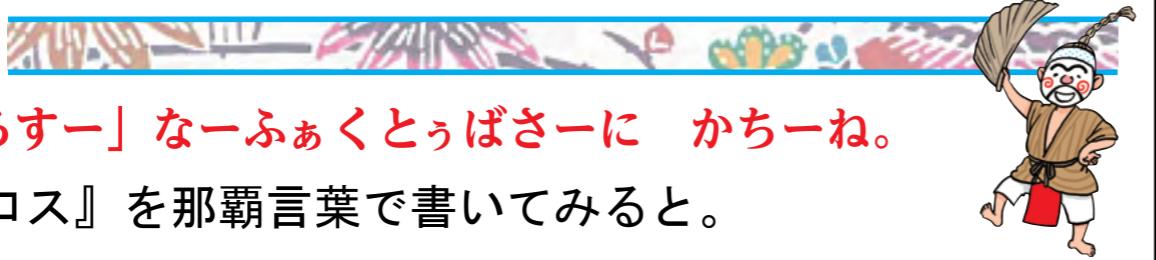
意) 瓦屋(瓦を焼く地域に対する呼称)の丘の上に登って、南の方を見ると、村の風景が見えるだけで、いといしい人の姿は見えない。朝鮮人の陶工が帰化して瓦製造をしたとき、夫がいる美女を見初め妻とした。無理に引きされた女は、故郷の夫を想いこの歌を読んだといわれている。

## <一口メモ> -読み人知らず-

琉歌の作者としては、読み人知らずとなっているものが圧倒的に多く、『琉歌全集』には3000首の琉歌が収録されていますが、そのうち作者が明記されているものは1315首で、300人ほどの作者がいたことが分かっていることです。

一般的に、読み人知らずの歌は風土性が豊かでおおらかで素朴であるのに対し、士族の歌は、観念的、技巧的で和歌文学の影響が多く見られる歌が多いといわれます。





「走れめろすー」なーふあくとうばさーに かちーね。

『走れメロス』を那覇言葉で書いてみると。

みなさんが、授業で使う教科書。その教科書に収録されている作品もしまくとうばで表現することができます。このページでは、ずっと以前からみなさんに親しまれている『走れメロス』をしまくとうばで表現してみました。教科書に掲載されている原文と引き合わせて、しまくとうばならではの世界を楽しんでみましょう。

めろそー れーじな わじとーん。かんなじ、あぬ 邪知暴虐じやちぼうぎやく をー  
とうつてきるきらんとー ならんり うみちちゃん。めろすねー せいじえー わからん。  
めろそー、むらぬ 牧人ぼくじん やる。笛ふち、ひちじとう あしろーてい くらちょーたん。  
やしが 邪悪じやくんかいてーしてー、ふかぬちゅやかー れーじな 敏感びんかんやたん。

メロスは激怒した。必ず、かの邪知暴虐の王を除かねばならぬと決意した。メロスには政治がわからぬ。メロスは、村の牧人である。笛を吹き、羊と遊んで暮らしてきた。けれども邪悪に対しては、人一倍に敏感であった。

ふいちゅいぬ ふなぐわらび、あかさるマント めろすんかい ぬしきたん。  
めろそー とうぬーまぬー。いいーるしぇー ちー ちかさーに ならーちゃん。  
「めろす、つやーや、まるはらか えーさに。ふえーく うぬマント ちーしぇー まし。  
くぬ すーらさる ふなぐわらべー、めろすぬ はらか、んーなんかい んーらりーしぇー,  
いっぺー はじかさんり うむたん。」いじじゅーや じこー あかじらーなたんり。

ひとりの少女が、緋のマントをメロスにささげた。メロスはまごついた。良き友は、気を利かせて教えてやった。

「メロス、君は、真っ裸じゃないか。早くそのマントを着るがいい。このかわいい娘さんは、メロスの裸体を、皆に見られるのが、たまらなくやしいのだ。」勇者は、ひどく赤面した。

太宰治著『走れメロス』青空文庫参考

## 北部 『はしれメロス』くしくとうわち かち んだー。

メロスや でーじな わじたん。かんなどう、あぬ 邪知暴虐じやちぼうぎやく 王ぬ ぬち  
とうらんなね ならんでいち きみたん。メロスや 政治や わからん。メロスや,  
村ぬ 牧人 いえーたん。ふあんそー ふち、羊とう あすでい くらち つちゃん。  
いえーすが、邪悪にちきていや ちゅーいちべー 敏感 いえーたん。

ちゅいぬ ふなぐわらぬ あかぬ マントー メロスけ さしいじやちゃん。  
メロスや うどうるちゃん。どうしや きー ちかてい ならーちゃん。  
「メロス、つやーや、まるばい しちょん。ふえーく マントー きれー。うぬ  
ちゅらはぬ ふなぐんぐわや メロスぬ まるばい むぬけ みらりすが,  
でーじな ふあどうこはん。」勇者や でーじな あかどうら なたん。

## 宮古

「走れメロス」つう みやーくふうちゅうし かき みーちゅかー。

めろっさ んにゃ ばたー。ふうさりゅーたいう。かならず、かぬ やなざいぴう  
とう だまがらす おーゆばー, ぶか なさだかー ならんてい きみたいう。  
めろすんな せいじやー すっさいん。めろすっさ さとうぬ ぼくじんどう やいう。  
ぴーや ふうき ぴつとう あすびいう くらしどう きうしうたいう。あしうがどう  
やなざい ぐとうんかいや ぴうとうぬ ぱいまい かんずーむぬどう やたいう。

たうきやーぬ みどうんやらびぬどう, あかーあかぬ まんとう めろすんかい  
うさぎ とらすたいう。めろすっさ どうまっづいぎいたいう。ぞー どうつさ, しょーつ  
つあまーり ならーし とうらしうたいう。「めろす, つづあー, あかばだかん なり  
どう ういうつざあらんな。ぴやーまり, うぬ まんとう きし。うぬ あぱらぎみ  
どうん つづああ, めろすぬ ぱだこー んーなん みーらいすーどう ありやーみー  
んにゃ みぱなー あかーあかしー きいむぐりーぐりん なり うたいう。

## 八重山

「走れメロス」しうまむにし かきみよーら

めろすや くんじょーくれー。やでーん あぬ ばたふさりむんゆ おー  
ぬきなすんで きめーだ。めろすや, 政治や しいさぬ。めろすーや, むらぬ  
牧人どう やりき。ぴーふき, ぴつとう あさび くらしだ。やすんが  
やなむぬ かいや たろーやかん かんばいしゃーだ。

ぴとうーりぬ みーどうなーぬ, あかまんと めろすかい おいすだー。めろすや  
ざまどうり。いー どうすおーや, きーきかし あんくだ。  
「めろす, わなー, ぱだがー あらんば。ペーぐ まんと きすそー ます。くぬ  
かなさーる みーどうなーや, めろすぬ ぱだがーゆ, むーるかい みらりすどう,  
のーやかん, くちさーる。」ゆうじやや でーじう あかうむてい すん。

## 与那国

『走れメロス』どうなんむぬいし かていん あしや。

めろすや にぐらるた くんどうんでいぶたん。かなーでい, かぬ 邪知暴虐じやちぼうぎやく  
おーや とうい つかっていらぬとう ならぬんでい, ちむに きみやん。  
めろすや 政治や ばがらぬん。めろすや, むらぬ 牧人どう あたる。  
ふいば つていー 羊とうどう あんびー くらし すたる いるんが, 邪悪じやく  
たいしていや つとうーぬ ぱい びんかんどう あたる。

つとういぬ みぬんがあがみていんが, あかぬ マントー, めろすんき さしんだたん。  
めろすや とうまどういきたん。いーどうちや, きー きかしてい, つたみとうらたん。  
「めろす, んだや まるはだか あらぬない。はやぐ うぬ マントー ちえー。うぬ んだら  
る みぬんがあがみていや, めろすぬ まるはだが むーるに んなりるんすんがどう,  
ぬーかん だんさる。」勇者や, しかつとう あかちら なたん。



なーふあくとうば ちかてい んーら。  
那覇言葉を使ってみよう。 (音)

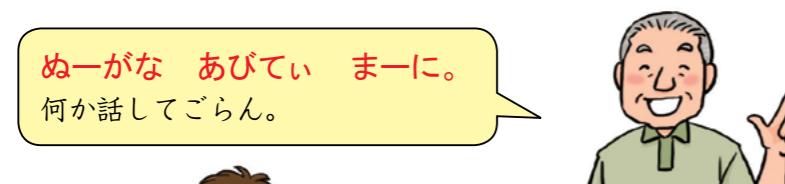
これまで、いろいろなしまくとうばの使い方をみてきました。でも、しまくとうばは、実際に使ってみなければ、身に付きません。そこで、これまで学んできたしまくとうばを使って、実際にしまくとうばを使ってみませんか。

まずは、自己紹介から始めてみましょう。

わんねー なーふあ たろう やいびーん。  
ちゅーがっこーぬ ににんしー やいびーん。  
私は、那覇太郎です。中学校の2年生です。



ぬーがな あびてい まーに。  
何か話してごらん。



ちゅーや いいー つわーちち やぐとう まじゅーん  
あしひーが いか。  
今日は良い天気なので、一緒に遊びに行こう。



ちゅーや あみ ふとーぐとう、まじゅーん びんちょー さな。  
わんにんかいん、なーふあくとうば ならーち とうらさに。  
今日は雨が降っているから、一緒に勉強しよう。  
私にも那覇言葉を教えてちょうだい。



## 北部 くしぬくとうわ とうかてい んだー。

わー なーや くしたるー。ちゅーがっこー2年生。  
私の名前は久志太郎です。中学校2年生です。

ぬーげら ふあなし しち んでー。  
何か話してごらん。

ちゅーや いいー つわーとうき いえーくとう、まんなな あすみが いかー。  
きょうは良い天気なので、一緒に遊びに行こう。

ちゅーや あみ ふとくとう、まんなな べんきょー さー。  
きょうは雨が降っているから、一緒に勉強しよう。

くしくとうわ ならーち とうらしえー。  
久志言葉を教えてちょうだい。

## 宮古 みやーくふうちゅう つかいみー。

ばがなーや みやーく たるー。ちゅーがっこーににんしー。  
私の名前は宮古太郎です。中学校の2年生です。

のーがらーゆ ぱなし みーる。何か話してごらん。

きゅーや かぎ わーちゅうきゅう やーば まーちゅうき あすぴうが ずー。  
今日は良い天気なので、一緒に遊びに行こう。

きゅーや あみぬ つぶい ういば まーちゅうき べんきょーすー。  
きょうは雨が降っているから、一緒に勉強しよう。

みやーくふうちゅう ならーしゅ ふいーる。  
宮古言葉を教えてちょうだい。

## 八重山 しゅまむに いじみやーむー。

ばー なーや いしがき たろーゆー。ちゅーがっこーにねんしえいゆー。  
私の名前は石垣太郎です。中学校の2年生です。

のーんがさ いじ みやーみーり (いじみーり)。  
何か話してごらん。

きゅーや おーつき かいしゃーりき まーずん あさぴな はら。  
今日は良い天気なので、一緒に遊びに行こう。

きゅーや あーみぬ ふいりき まーずん びんきょー さー。  
今日は雨が降っているから、一緒に勉強しよう。

しゅまーむに ならーし ひーりや。八重山言葉を教えてちょうだい。

## 与那国 ちまむぬい つかいんぬー。

あんがなーや どうなんたるーゆ。ちゅーがっこー2にんしどう ない ぶる。  
私の名前は与那国太郎です。中学校の2年生です。

ぬー あるばん はなしきー んにに。  
何か話してごらん。

すーや いー わしきどぅ ありやー, まどぅん あんびんでい でーー。  
今日は良い天気なので、一緒に遊びに行こう。

すーや あみどぅ ふいぶるんがら まどぅん びんきゅ きるやー。  
今日は雨が降っているから、一緒に勉強しよう。

ちまむぬい ならし とうらしんに。与那国言葉を教えてちょうだい。